



橙 (ダイダイ)

熱海市・伊東市は年間を通して温暖な気候であることから柑橘類の生産が盛んです。特にお飾り用橙は全国有数の産地で、幕末の慶応3年には、すでに栽培されていた記録が残っています。

お飾り用の他に、サイダーやマーマレードの原料としても使用されています。

営農アドバイザーから

あいら伊豆地区営農販売課

もり あすさ
森 梓

尾崎さんは、いつも笑顔で明るい方で、高品質な橙を作ろうという熱い思いが強く、徹底した管理作業をしています。

JAとして生産のお手伝いをして、品質の良い橙を出荷できるよう努めています。今後も生産者をサポートし産地維持を図ります。



農業が好き 自然が好き 好きが原動力につながる

家業の農家を継いで就農

熱海市泉で育った尾崎一雄さんは、会社員を経て家業の農家を継ぎ就農しました。「幼い頃から家業を手伝いながら山の中で自然と遊んでいた。祖父の勧めで農業高校に進学し、果樹を専攻。勤めていた時も休日は草刈りなどを手伝っていた」と振り返り、就農後は主に、温州ミカンなどの柑橘類を栽培しながら養蜂もしていたと話します。

温州ミカンから橙へ改植

尾崎さんは「橙は温州ミカンに比べて鳥獣害が少なく、管理が大変な貯蔵の必要もな

農

に生きる

～Challenge to my Dreams～

ダイダイ
橙生産者

尾崎一雄さん (72)

熱海市泉在住。「お飾り用橙」をメインに柑橘類などを約30アールのほ場で栽培。平成17年に、家業の農家を継いで就農。現在、熱海ワナの会副会長を務める。



令和5年10月12日撮影



生育を確認する尾崎さん(左)と森営農アドバイザー



11月下旬から色ついた橙を出荷

尾崎さんは毎年10本ずつ苗木を定植

い」と10年前から橙の苗木を毎年10本ずつ定植し、温州ミカンから橙に改植してきました。「苗木が成長して初なりするのを見るのが楽しみでうれしい」と笑顔で話します。「栽培の基本は防除・施肥・剪定の3つ。JA栽培暦の管理基準に従い、一年を通してしっかりと畑の管理をすることが見た目の良いきれいな橙を栽培するためには大事」と語る尾崎さんは、改植しながら畑の整備もしています。苗木は手が届くくらいの高さに調整し、収穫や防除などの作業がしやすいように工夫しています。

「年輪を重ね、腰や体も痛む。20キロコンテナを運ぶのも大変になった」と苦笑いする尾崎さん。「自然に左右される農業は大変なこと多いが、収穫が終わって一段落した時の達成感と喜びが次への励みになっている。農業は本当に楽しい」と笑顔を浮かべ「元気で体が動くうちは栽培を続けていきたい。農業のおかげで、仲間と出会い交流することができる」と農業の魅力を熱く語りました。

健康の秘訣は農作業と仲間との会話

「縁起物として正月のお飾りに使われている橙は、実の美しさが重要」と、高品質な果実を出荷するために、特に厳しく選果しています。